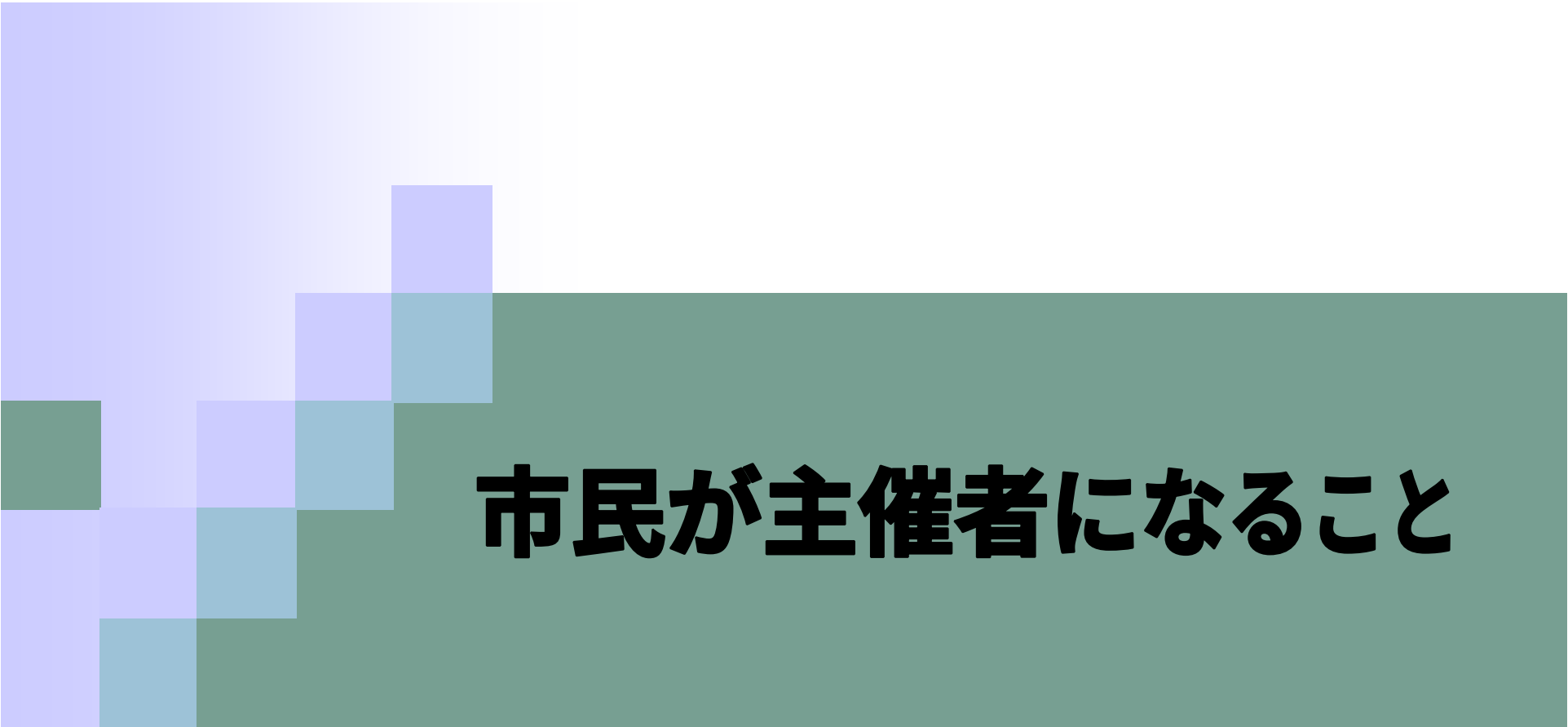




市民が主催者になること

(グループワーク参考資料)
**「2.自分たちが主催者になるとしたら
何が実施できるか。」**



I なぜ市民が主催者となるのか

■一般的に・・・公立文化施設の二つの道

1) 貸館業務がほとんど

★その大多数が、技術スタッフは外注。
意外にも県庁所在地の施設に多い。

2) 自主事業実施をおこなう

①買物公演が主体

★技術スタッフが外注のところも。

②オリジナルな制作をおこなう

→行財政改革の中でピンチ

**1) の例：松山市民会館（大ホール客席と中ホール舞台）
ほかに東京文化会館など**



**2) ①の例：和光市民文化センター「サンアゼリア」
塩尻市文化会館「レザンホール」など**



2) ②の例：世田谷パブリックシアター（主劇場）
ほかに、まつもと市民芸術館など





■第3の道・・・市民自らの力で事業を実現する

- 1) 市民が主催者になる。
- 2) 市民提案を市民と文化施設が協働する。



II 文化ホールにおける「市民」

1) 茅野市民館建設の経緯

茅野市HP

「1999年、基本構想を創り上げるところから、設計者を選び、理想の市民館を専門家とともに設計するまで、市民主導で検討が行われました。」

2003年に着工し2005年3月竣工、半年の準備期間を経て2005年10月、「市民一人ひとりが主人公になれる市民のひろば」が誕生しました。」



2) 事業企画と市民

①茅野市民館の事業の柱

i . **主催事業** (共催も含む)

ii . **貸館事業**

→貸館事業も主催事業と同様に
館専門スタッフが手厚くサポート

②事業企画会議

→茅野市の文化に何が必要か、**市民とともに
議論する会議**を1年に8回程度開催。

すべての主催事業は、事業企画会議を経て決まる。



III 事業を主催する

■ 「事業を主催する」とは？

- 1) 事業遂行の責任
- 2) 「安全」の責任
- 3) 経済的責任



事業を実施する

1) 事業企画の手順・・・取り組み開始

①妄想（10年前～3年前）

★あれをやりたいこれをやりたい

→どうしても実現したい、誰かに見せたいへ。

②実現の可能性の模索（5年前～1年前）

★誰に関わってもらうのか、誰に相談すれば実現するのか、どれくらい予算がかかるのか。

③実行委員会＝主催者の確定（2年前～1年前）

★さまざまな責任の所在の確認、資金計画、施設の予約。



2) 事業企画の手順・・・直前

- ①半年～3ヶ月前：最終的な資金計画と企画書を決定。
- ②1年～2週間前：ポスターチラシの作成・配布。
★合わせてチケットも作成。発売日も決める。
- ③半年～3ヶ月前：内容の最終的な調整。
★当日配布プログラムも作成。
- ④半年～3ヶ月前：プレスリリースの作成。
★記者クラブへの投込み、取材依頼をおこなう。
- ⑤3ヶ月～1ヶ月前：チケット売れ行きの確認。
★売れてなければ各所に営業活動。



⑥1ヶ月前：会場・アーティストとの打ち合わせ。

★技術スタッフの過不足なども確認。

⑦1ヶ月前：人的配置の確認。

★あわせてオペレーションマニュアルなどを作成。

⑧2週間前～3日前：チケットの販売促進。

★場合によっては満席告知ないしは
当日券情報の告知

⑨2週間～1週間前：天候の確認、弁当飲み物手配、
打ち上げ会場確保、アテンドの手配などなど。



3) 事業企画の手順・・・当日

①設営

②必要物の確認

③スタッフミーティング

★アーティストとの顔合わせ

④リハーサル

⑤開場



■主催者の危機管理

1) 天候

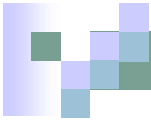
★明確な判断基準を決めておき、柔軟に対応。
しかし、告知は困難。

2) 交通障害

→原則は時間通り実施。
苦情にどのように対応するか？

3) 催事中の事故

★ワークショップ等に関しては、
ボランティア保険に加入。
★美術作品等には美術品関係保険。
あとは、「誠意」



■ともに主催者の「危機」を考えよう

1) 赤字が出た！

▼事前に赤字の解消方法を決めておく。

▼とくに新聞社等企業・法人との共催時には、慎重に。



2) 催事が中止になった！

① 自然災害

★ 東日本大震災時の対応

② アーティストの不在



IV ともに企画を立ててみよう

1) 企画書を書く

2) 助成金を申請してみる。